

第14回 作業療法ジャーナル研究助成

小橋美月氏の「乳がんサバイバーにおけるがん治療に伴った 認知機能障害の復職に与える影響の検討」に決定



小橋美月氏

過日、第14回 作業療法ジャーナル研究助成対象選考会が開かれ、小橋美月氏の研究が選ばれた。小橋氏の研究テーマは「乳がんサバイバーにおけるがん治療に伴った認知機能障害の復職に与える影響の検討」である。助成期間は3年間であり、助成金額は30万円である。研究経過については、次年の本誌に掲載する。

第14回研究助成を受けての言葉

小橋 美月

(京都大学大学院、作業療法士)

このたび、第14回作業療法ジャーナル研究助成対象として選出していただき、誠にありがとうございます。特に「作業療法ジャーナル」編集委員、ならびに選考に携わっていただきましたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。この機会を十分に活かし、今後の作業療法の発展のために尽力して参ります。

研究テーマは「乳がんサバイバーにおけるがん治療に伴った認知機能障害の復職に与える影響の検討」です。がん医療の進歩に伴い、がんサバイバーが増加している中、がん治療に関連して生じるさまざまな症状に対する支持療法の重要性も高まっています。近年、がん治療に伴った認知機能障害が注目され、中でも化学療法に関連する認知機能障害は「ケ

モブレイン」等と呼ばれています。この認知機能障害は、がんサバイバーの職場復帰等の社会復帰を阻害している要因の一つと考えられますが、その関連性を検討した研究は少ない状況です。特に乳がん患者は発症年齢が若く、がん治療後の復職支援において認知機能障害は重要な課題です。そこで、乳がんサバイバーを対象にアンケート調査を実施し、がん治療に伴う認知機能の変化および復職に対する影響を検討したいと考えています。

本研究が発展することで、認知機能障害のあるがんサバイバーの復職支援における有効な支援につなげることができ、認知機能障害を支援する作業療法の新たな領域拡大の第一歩となると考えています。